

特別支援学級 生活単元学習指導略案

知的障害特別支援学級（はばたき学級 1組, 2組）

10人（1年男子1人, 3年男子2人, 4年女子2人, 5年男子1人, 6年男子2人, 女子2人）

指導者 T1 西窪賢蔵 T2 秋野麻衣子

1 単元名 ようこそ あすはばカレンダー一屋へ

2 単元の目標

- 「フェスタ山下」（PTAバザー）や本単元で学習する内容を知ったり、実際に活動したりすることを通して、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができる。
- カレンダーや店、コマーシャル作り、販売の練習など「フェスタ山下」に向けた一連の活動を通して、生活に必要な知識や技能を身に付けることができる。
- 「フェスタ山下」に向けた活動を通して、友達と一緒に活動する楽しさを味わったり、力を合わせて課題を解決したりすることができる。

3 単元設定の理由

昨年度、「フェスタ山下」に参加した子供たちは、カレンダー作りや、販売の練習などに意欲的に取り組むことができ、今年も「フェスタ山下」を楽しみにしている。しかし、本学級の子供たちは、日ごろの学習や生活の中で、見通しを十分にもてないことが多い。また、制作活動などでは、手順の理解に時間がかかったり、丁寧に活動を進めることができなかつたりする姿も見られる。さらに、学校生活を送る中では、仲よく活動できているが、特定の子供としか関係を築くことができなかつたり、ルールを守ることが難しく、協力して活動できなかつたりする実態がある。

そこで、本単元では、昨年度までの「フェスタ山下」の学習の様子を振り返ったり、導入に本時の活動を確認する時間を設定したりすることで、子供たちが「フェスタ山下」に向けた活動に見通しをもって、主体的に取り組むことができるようにする。また、カレンダーの絵や詩をかく活動、丁合活動、広報活動、販売活動など一連の活動を共に経験することで、言葉や数についての知識や金銭のやり取りなど、生活に必要な技能を身に付けることができるようにする。さらに、これらの活動を行う中で、友達と関わり合う場を多く設定することで、力を合わせて物事を成し遂げるよさを感じることができるようになる。

この単元を通して、子供たちが生活に必要な知識や技能を身に付け、日常の生活に生かしていこうという意欲を高めることができるようにしたい。さらに、子供たちがカレンダー作りや販売活動での頑張りを他者に認められることで自己肯定感を高め、これからも多くの人と関わりをもつ中で、よりよい人間関係を築いていきたいという思いを強くもてるようにしていきたい。

4 本時（12/17）

これまでに子供たちは、カレンダーの絵や詩をかき、丁合活動を行い、カレンダーを完成させた。前時では、全校に向けたコマーシャルを作ることを知り、作成に向けて役割を分担した。

(1) 目標

動画やスライドを作る手順を理解し、友達と協力してコマーシャルを作ることができる。

個人目標	A児(1年)	先生や友達と一緒に、コマーシャル作りに参加することができる。
	B児(3年)	友達と協力して、コマーシャルを作ることができる。
	C児(3年)	友達と一緒に、コマーシャルを作ることができる。
	D児(4年)	友達と協力して、最後までコマーシャル作りに参加することができる。
	E児(4年)	自分の考えを、友達に伝えてコマーシャルを作ることができる。
	F児(5年)	自分の得意なことを友達に伝え、協力してコマーシャルを作ることができる。
	G児(6年)	友達の意見を受け止めて、協力してコマーシャルを作ることができる。
	H児(6年)	自分の考えを友達に積極的に伝えて、コマーシャルを作ることができる。
	I児(6年)	コマーシャル作りの手順を理解して、順番通りコマーシャルを作ることができる。
	J児(6年)	コマーシャルを作る大切なポイントや手順を理解して、友達に教えることができる。

(2) 指導に当たって

ア 「関わり合い」に視点を当てた授業づくり【研究内容1】

(ア) 子供の実態に応じた「関わり合い」の設定

「関わり合い」についての実態として、協力する場で相手に順番を譲ったり、分からないことを友達に伝えたりすることが難しいという課題が見られる。そこで、本時では、グループに分かれてカレンダーのコマーシャルを作るという「関わり合い」（協力）の場において、教師の手立てを工夫することで、子供が「関わり合い」のよさを味わうことができるようにする。

(イ) 子供同士の「関わり合い」を充実させるための手立て

コマーシャル作りを行う際に、タブレットPCをグループに準備することで、撮影した写真や動画を子供同士で相談し合いながら編集できるようにする。

イ 学びの自覚を促し、次につなぐ学習指導の工夫【研究内容2】

(ア) 学びの自覚を促す手立て

「振り返る」過程において、自己評価と相互評価の場を設定し、互いに認め合ったり、自分の姿を客観的に捉えたりすることで、学びの自覚を促すことができるようにする。

(イ) 次につなぐ手立て

本時のコマーシャルを振り返り、「このコマーシャルで、みんな買ってくれるかな。」「これよりもっとよくできないかな。」と問い掛けを行うことで、「もっと、お客さんが買いたくなるようなコマーシャルを作りたい。」という思いをもち、次時へつなぐことができるようにする。

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	子供に応じた具体的な手立て
つかむ・見通す(15)	<p>1 学習の流れを確認する。</p> <p>2 本時の学習について知る。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p> <p>あすはばカレンダーのコマースシャルをつくろう。</p> <p>(1) めあてを声に出して読む。</p> <p>(2) コマースシャルの内容について話し合う。</p> <p>聞く 話す【関わり合い(教示・援助)】</p> <p>たくさんの人にカレンダーを買ってもらうために、みんなはコマースシャルでどんなことをお客さんに教えたいですか。話し合ってみましょう。</p> <p>(3) 個人のめあて(「今日頑張ること」)を決める。</p> <p>今日は、お客さんのことを考えて、コマースシャルを作ることができるようにしよう。</p>	<p>○ 「単元マップ」を提示することで、本時の学習の見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○ 前時の学習の様子を写真で振り返らせることで、本時の学習に見通しをもち、本時のめあてを考えることができるようにする。</p> <p>○ 「コマースシャルでどんなことをお客さんに教えたいですか。」と問い掛けを行い、子供たちにコマースシャルの内容を考えさせることで、子供が目的意識をもって学習に取り組むことができるようにする。</p> <p>○ 「友達と協力して〇〇できる。」「お客さんのことを考えて〇〇できる。」など、言葉を書き込むことができるめあてのカードを黒板に提示することで、子供が自分に合っためあてをできるだけ自分の言葉で立てることができるようにする。</p> <p>○ 前時で決めた役割分担表を提示することで、役割を自覚して活動に取り組むことができるようにする。</p> <p>○ 各グループに手順を記したカードを配布することで、自分たちで活動を主体的に進めることができるようにする。</p> <p>☆ タブレットPCを使うことで、子供が自分で呼び掛けの場面を撮影したり、適切な言葉を付け加えながらスライドを作ったりすることができるようにする。</p> <p>○ 上学年の子供と下学年の子供がグループを組むことで、分からないところを教えたり、互いに助け合ったりすることができるようにする。</p>
活動する(20)	<p>4 グループに分かれて選んだ写真に見出しを付けたり、動画を撮影したりする。【関わり合い(協力)】</p> <p>どうしたらお客さんがカレンダーを買いたいと思うコマースシャルができるでしょうか。一緒に相談して、考えて作ってみましょう。</p> <p>(1) スライドグループは写真を選び、様子が伝わる言葉を付け加える。</p> <p>動く</p> <p>写真はこの順番に並べていいかな。</p> <p>うん。はっきりした声で言おうね。</p> <p>そうだね、絵を描いている場面は最初の方がいいね。</p> <p>(1) 動画グループは、動きと言葉を考えて撮影する。</p> <p>動く</p> <p>「200円です。」と、値段はしっかり伝えた方がいいんじゃないかな。</p>	<p>A児： 教師が手をとって一緒に活動することで、コマースシャル作りに参加することができるようにする。</p> <p>B児： 友達と活動できた様子を称賛することで、協力しようとする意欲を高めることができるようにする。</p> <p>C児： 困ったときに質問する話型を提示することで、友達に依頼・要求をして一緒に活動できるようにする。</p> <p>D児： タイマーで活動時間を視覚的に捉えさせることで、長い時間活動することができるようにする。</p> <p>E児： 教えるときに使う話型を子供に提示することで、友達にアドバイスすることができるようにする。</p> <p>F児： タブレットPCの操作方法を提示物で確認させることで、自信をもって活動できるようにする。</p> <p>G児： リーダーという役割を任せることで、活動への意欲を高めることができるようにする。</p> <p>H児： 教えるときに使う話型を提示したり、教師が見本を示したりすることで、積極的に教えることができるようにする。</p> <p>I児： スライドや動画の作り方を示した手順カードを確認させることで、方法を確かめながら活動できるようにする。</p> <p>J児： 教えるときの望ましい言葉遣いを示したカードを提示することで、優しく教えることができるようにする。</p>
振り返る(10)	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>友達と協力して、絵を描く場面のスライドを作れた。</p> <p>〇〇さんは、お客さんのことを考えて笑顔で言っていたよ。</p> <p>6 次時の学習について知る。</p> <p>次の時間は、今日作ったコマースシャルよりもっとよいコマースシャルを作ろぞ。</p>	<p>◆ 適宜、個人のめあての達成状況を確認して自己の学びを自覚することができるようにする。</p> <p>◆ グループ毎に、個人のめあてが達成できているかを相互に評価する場を設定することで、互いに認め合ったり、自己評価に客観的な評価を取り入れたりすることができるようにする。</p> <p>○ 自己評価カードをもとに、今日頑張ったことを全体で発表し合う場を設定することで、自己肯定感を高めたり、友達の頑張りを認めたりすることができるようにする。</p> <p>○ 「このコマースシャルで、みんな買ってくれるかな。」「これよりもっとよくできないかな。」と言葉掛けをすることで、次時への見通しと活動意欲をもつことができるようにする。</p>

はばたき学級「ようこそ あすはばカレンダー屋へ」本時（12/17）における「関わり合い」想定シート

「関わり合い」の目的

- 1 子供たちがコマースシャルでお客さんに伝えたいことを確認するため。
- 2 「今日頑張ること」を意識して、コマースシャルを作るため。

「関わり合い」の方法

形態	1 グループ(3～4人)→全体	思考を可視化する手立て	板書, 写真, タブレットPC
	2 グループ(2～6人)		

「関わり合い」で期待される子供の姿

A・C児	友達や教師の意見を, 受け入れて活動することができる。
B児	友達や教師と一緒に, 仲良く協力して活動することができる。
D児	友達の思いや考えを受け入れて活動することができる。
E・F・I児	自分の思いや考えを, 聞こえる声で友達に伝えることができる。
G・H・J児	グループの中でみんなに教えたり, 意見をまとめたりすることができる。

「関わり合い」を充実させるための四つの活動と本時において身に付けさせたいスキル

聞く	コマースシャルの内容について話し合う中で, 話す人の顔を見て意見を聞く。
話す	コマースシャルの内容について話し合う中で, 相手に体を向けて自分の意見を伝える。
見る	自分や友達が作った動画や静止画, 組み合わせて作成したコマースシャルを集中して視聴する。
動く	コマースシャルを作る際に, 友達と一緒に協力しながら行動する。

「関わり合い」の想定

教師の手立て

3-(2) コマースシャルの内容について話し合う。

【「関わり合い」(教示・援助)】



みんなはコマースシャルでどんなことをお客さんに伝えたいですか。話し合ってみましょう。

ぼくは, 値段を教えたほうがいいと思うよ。

※ 自分の思いや考えを伝える。(E・F・I児)



うん。いいね。

※ 友達の思いや考えを受け入れる。(A・B・C・D児)

〇〇さんは, どう思う。

※ 話し合いを促す。(G・H・J児)



4-(1) グループに分かれて選んだ写真に見出しを付けたり, 動画を撮影したりする。【「関わり合い」(協力)】



一緒に相談しながら, コマースシャルを作りましょう。

ぼくは, 「1冊200円です。」と言った方がよいと思う。

※ 自分の思いや考えを伝える。(E・F・G・H・I・J児)



それいいね。値段を言うようにしよう。

※ 友達の思いや考えを受け入れる。(A・B・C・D児)

この写真は, どんな言葉を入れたらよいか。

※ 分からないことや困ったことを聞く。(A・C・D・F・I児)



こうしたら, いいよ。

※ 方法を教えたり, 手伝ったりする。(E・G・H・I児)

順番はどうしたらよいと思う。教えてね。

※ 話し合いを促す。(G・H・J児)



- コマースシャルの内容について家庭でも話題にしてもらうように, 保護者に依頼することで, 意見をもって話し合いに参加することができるようにする。(全員)
- 異学年を一緒のグループにすることで, 互いに教えたり, 助けたりすることができるようにする。(F・G・H・I児)
- 活動に見通しをもつことが難しい下学年の子供は, 上学年の子供とペアを作ることで, 一緒に活動できるようにする。(A・C児)
- 分からないことを聞く話型を示したり, 教師が見本を見せたりすることで, 質問できるようにする。(A・C・D・F・I児)
- 動画とスライドの作り方をカードで提示することで, 子供が確認しながら活動できるようにする。(全員)

